

# 基本目標4 生物多様性を守り、活かす自然共生社会の構築

## 目指す将来像

- 生物多様性の重要性が広く認識され、多様な主体が保全活動に参加している。
- 生物多様性がもたらす豊かな恵みを享受し、持続的に活用している。
- 本県ならではの自然環境や景観などの環境資産を活かした取組みにより、地域の活性化が図られている。

## 施策の展開方向

<これまで> 豊かな環境を守り、活かす  
自然共生社会の構築

(1) 自然環境との共生

(2) 生物多様性の保全

(成果と課題)

- ・ 捕獲の担い手の確保が促進、森づくり活動の参加者が増加し、森林の保全・利用が促進
- ・ 生物多様性の理解の促進、絶滅のおそれのある野生動植物の増加、イノシシ等の生息域拡大に伴う農業被害の増加、荒廃森林の回復・保全等

<今後> 生物多様性を守り、活かす  
自然共生社会の構築

(1) 生物多様性の保全

(2) 自然環境との共生

(3) 環境資産の活用・継承

- ➡
- ① 持続可能な自然共生社会の構築
  - ② 郷土愛の醸成、地域活性化

- 「**生物多様性**」の理解の促進（自然とのふれあい体験活動、森林や生き物の保全活動への参加等の促し等）
- **絶滅のおそれのある種**や**重要な生態系**の保全と再生（モニタリング調査等の実施、保護対策の推進等）
- **野生鳥獣の管理強化**と**鳥獣被害対策**の推進（狩猟者の確保・育成、集落単位での被害対策の推進等）
- **山岳資源**や**自然公園施設等**の再整備や維持管理による利活用を推進し、**山岳観光者数を増加**
- **森林が有する公益的な機能**の維持及び持続的な発揮（多様で健全な森林づくり、県民参加の森づくりの推進等）
- **環境資産**を活かした**地域活性化**の取組みの促進（第6回「山の日」全国大会の開催、避難小屋の整備の推進等）